

福島第一原子力発電所
2024年度の災害発生状況と
安全活動計画について

2025年 2月19日

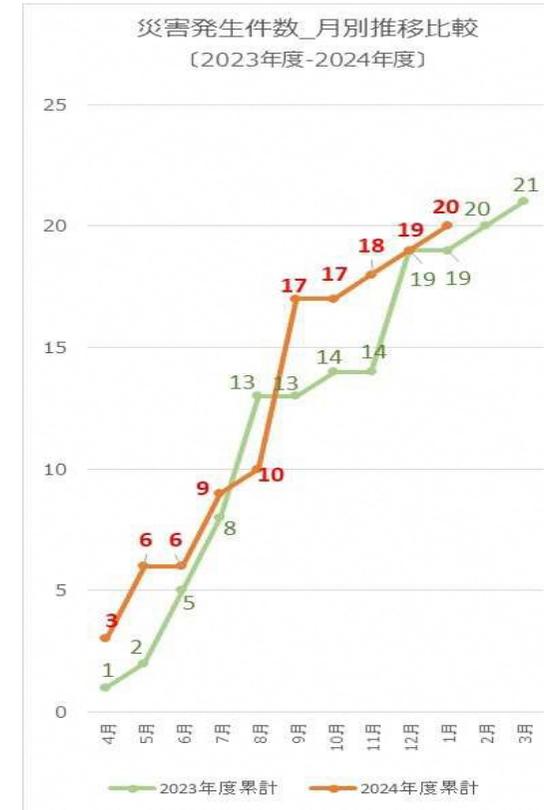
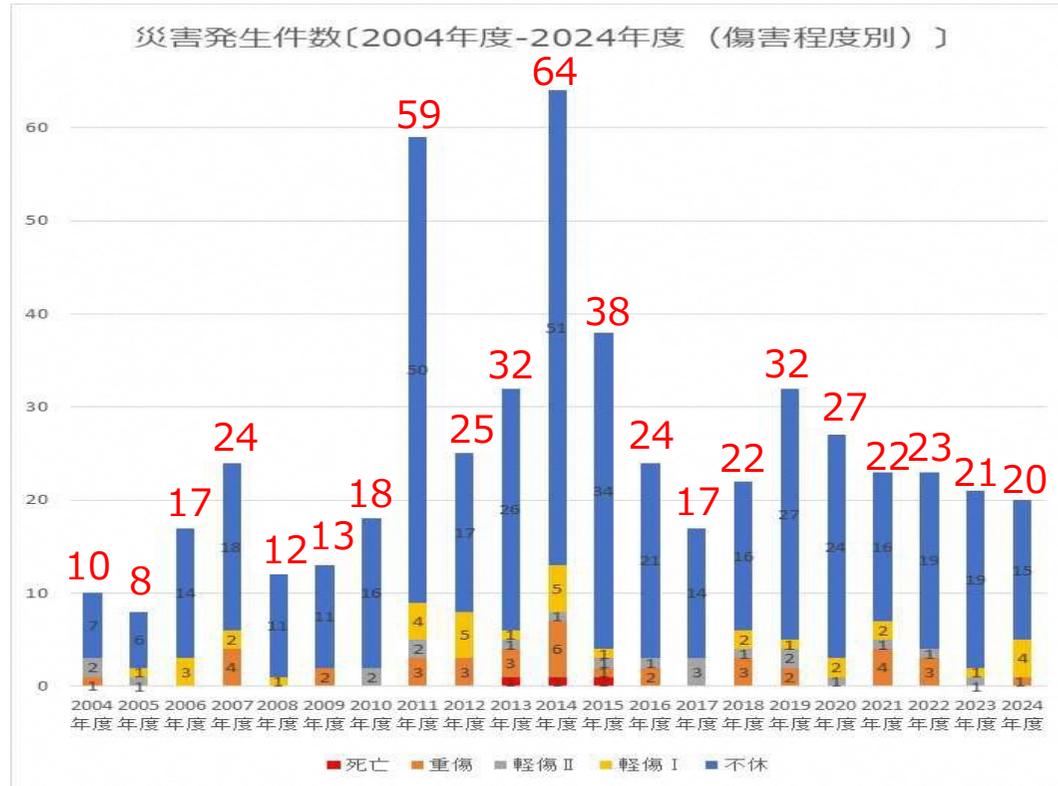
東京電力ホールディングス株式会社

TEPCO

1. 2024年度災害の発生状況 (1/3)

(2025年1月末現在)

(1) 災害発生状況 (全災害)



- ・2024年度の災害は、2023年度1月末値と比較して**1名増 (19人⇒20人)** となっている
- ・2024年度の休業災害は、2023年度1月末値と比較して**3名増 (2人⇒5人)** となっている
- ・2024年度の**休業災害以上の度数率は、「0.47 (前年度0.15) 」**であり、全国の令和5年総合工事業の度数率「1.69 (前年1.47) ※」より**低い**状況

※出典：厚生労働省 令和5年労働災害動向調査

- ・度数率：100万延実労働時間当たりの労働災害による死傷者数

* 傷害程度：休業日数による分類 ・重傷：14日以上 ・軽傷Ⅱ：4～13日 ・軽傷Ⅰ：1～3日 ・不休：休業なし

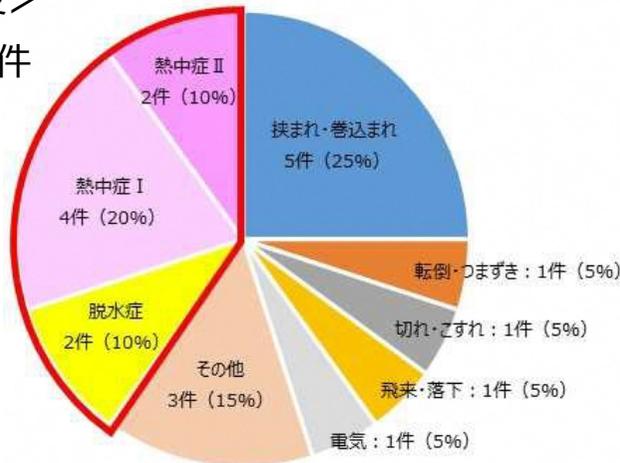
1. 2024年度災害の発生状況 (2/3)

(2025年1月末現在)

(2) 災害種別別発生状況

<2024年度>

全件数：20件



※その他：①化学火傷、②腰痛、③サポートへの頭部接触

<2023年度>

全件数：21件



※その他：耳に単管パイプが接触

◇2024年度災害 ～災害種別と傷害の程度

「挟まれ・巻込まれ」⇒軽傷 I：1件/不休：4件

「転倒・つまずき」⇒重傷：1件

「切れ・こすれ」⇒不休：1件

「飛来・落下」⇒不休：1件

「電気」⇒不休：1件

「その他」⇒軽傷 I：1件/不休：2件

「熱中症・脱水症」⇒軽傷 I：2件/不休：6件

◇災害の傾向 ～災害種別で一番割合が高いもの

「挟まれ・巻込まれ」

2023年度 4件 ⇒2024年度 5件 (1件増加)

「転倒・つまずき」

2023年度 8件 ⇒2024年度 1件 (7件減少)

◇「熱中症・脱水症」の傾向

2023年度 7件 ⇒ 2024年度 8件 (1件増加)

[内訳]

・軽傷 I：熱中症 II：1件、熱中症 I：1件

・不休：熱中症 II：1件、熱中症 I：3件、脱水症：2件

※参考：熱中症重症度分類

◆熱中症 I … めまい・失神、筋肉痛・筋肉の硬直

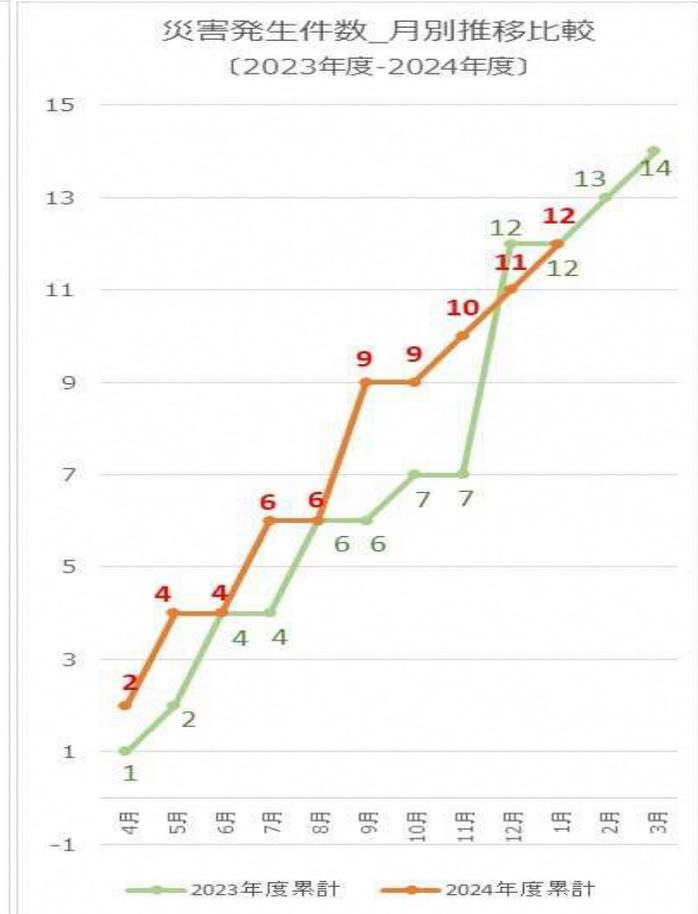
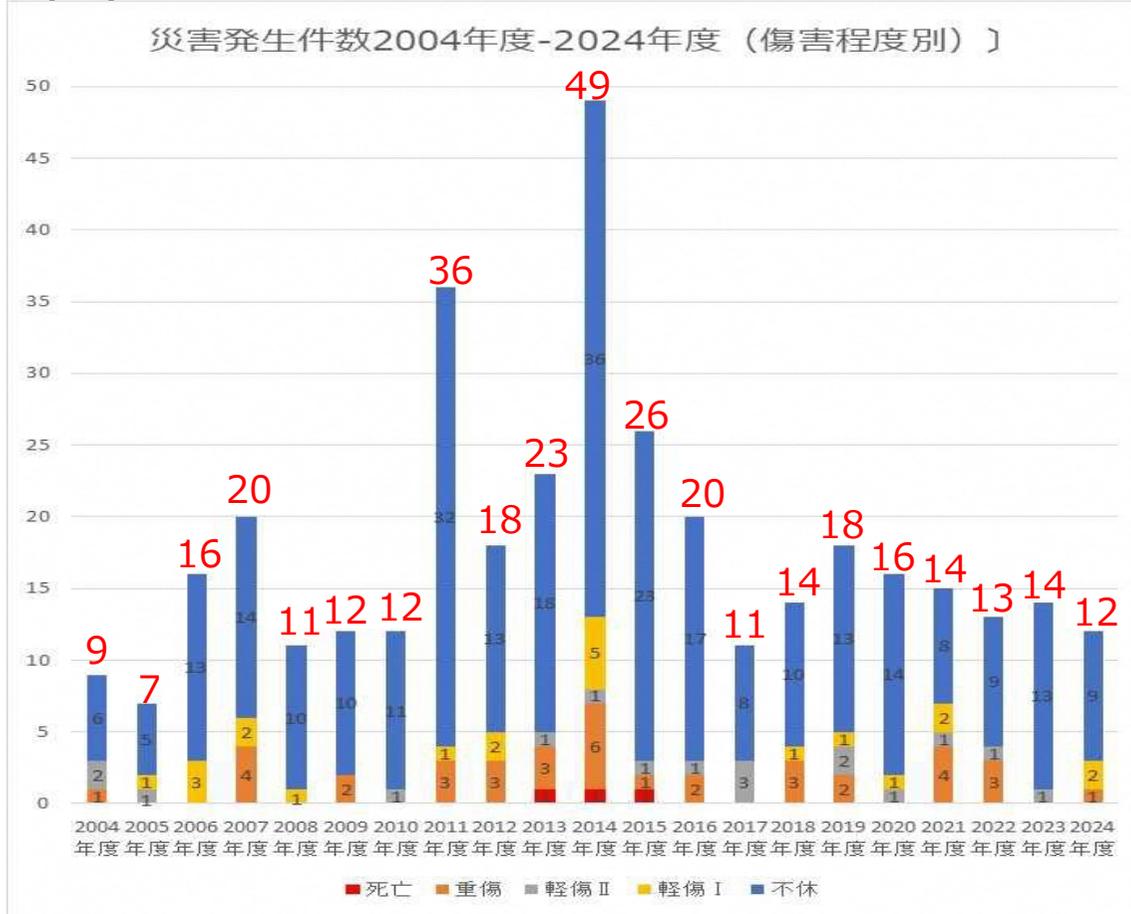
◆熱中症 II … 頭痛、吐き気、嘔吐、倦怠感、虚脱感

◆熱中症 III … IIの症状に加え、意識障害、けいれん、手足の運動障害

1. 2024年度災害の発生状況 (3/3)

(2025年1月末現在)

(3) 災害発生状況 (熱中症除く)



- ・2024年度災害 (熱中症除く) は、12件で、重傷が1件、軽傷Ⅰが2件、不不休が9件となっている
- ・2024年度災害 (熱中症除く) は、2023年度1月末値と比較して同数 (12人⇒12人) となっている

	<2023年度>	<2024年度>
重傷	0件	1件
軽傷Ⅰ	1件	2件
不不休	13件	9件
合計	14件	12件

* 傷害程度：休業日数による分類 ・重傷：14日以上 ・軽傷Ⅱ：4～13日 ・軽傷Ⅰ：1～3日 ・不不休：休業なし

2. 2024年度災害の傾向

No	月日	件名	①本作業／②準備・片付け・移動	種別	負傷部位	物的要因(直接)	年齢	経年数	装備	傷害程度
1	4月22日	燃料取り出し用南側構台設置工事における歩廊設置作業時に指を挟まれ負傷	①本作業	はさまれ・まきこまれ	手	吊り荷	30代	0年 3ヶ月	G 装備 鷹専用靴	不休
2	4月24日	コンクリート表層の剥がし作業中、高圧ケーブルを損傷し飛散したアークにより熱傷	①本作業	電気	顔・右腕	ケーブル	50代	13年 0ヶ月	G 装備 作業靴	不休
3	5月23日	コンクリートミキサー車のシュート部清掃時に昇降ステップを踏み外して股関節を負傷	①本作業	転倒・つまずき	足	踏み台(ステップ)	60代	0年 9ヶ月	G 装備 G短靴	重傷
4	5月30日	コンクリート打設作業中、コンクリートが長靴内に入りこみ両足脛部を化学熱傷	①本作業	その他	足	生コン	50代	11年 11ヶ月	G 装備 長靴	不休
5	7月3日	移動しようとしていた仮設鋼材を落下させ左足指を負傷	②片付け	飛来・落下	足	鋼材	20代	4年 0ヶ月	Y 装備 Y 短靴	不休
6	7月9日	鋼材片付け作業中、鋼材と枕木の間に右人差指をはさみ負傷	①本作業	はさまれ・まきこまれ	手	鋼材	20代	0年 10ヶ月	Y 装備 Y 短靴	不休
7	9月25日	エレベーター組立て作業中に部材に指を挟まれ負傷	①本作業	はさまれ・まきこまれ	手	吊り荷	40代	2年 1ヶ月	G 装備 G短靴	軽傷 I
8	9月25日	作業中に工具で左親指を挟み負傷	①本作業	はさまれ・まきこまれ	手	工具	50代	0年 1ヶ月	G 装備 G短靴	不休
9	9月25日	メッシュパレットの組立作業中、腰を痛め負傷	①本作業	その他	腰	メッシュパレット	30代	0年 3ヶ月	(構外) 一般服 安全靴	不休
10	11月19日	1号機大型カバー設置工事玉掛作業中にワイヤーに左小指が接触し負傷	①本作業	切れ・こすれ	手	ワイヤー(吊具)	20代	0年 10ヶ月	Y 装備 Y 短靴	不休
11	12月10日	5号機T/B建屋地下1階復水器エリアにて移動中に配管サポートに頭部をぶつけ負傷	②移動	その他	頭	サポート	50代	3年 2ヶ月	G 装備 G短靴	軽傷 I
12	1月10日	サブドレン他移送設備 サンプルタンクエリアにて逆止弁点検中に右手指を挟み負傷	①本作業	はさまれ・まきこまれ	手	弁(部品)	60代	9年 6ヶ月	G 装備 G短靴	不休
傾向	上期多い 下期少ない	—	本作業が多い	はさまれ・まきこまれが多い	手の負傷が多い	重量物扱いでの災害が多い	-	-	G 装備が多い	不休災害が多い

<傾向>

- ・2023年度に多かった準備・片付け・移動時における災害は減少したが、本作業での災害が増加した
- ・2023年度に多かった転倒・つまずき災害は減少したが、はさまれ・まきこまれ災害は増加した
- ・重量物を取り扱う作業における災害が増加した（特に手のはさまれ災害が多い）

3. 2024年度災害の傾向と今後の安全対策

(1) 災害の傾向

- ・2023年度に多かった準備・片付け・移動時における災害は減少したが、本作業での災害が増加した
- ・2023年度に多かった転倒・つまずき災害は減少したが、はさまれ・まきこまれ災害は増加した
- ・重量物を取り扱う作業における災害が増加した（特に手のはさまれ災害が多い）

(2) 2024年度安全活動の評価と今後の方向性

- ・2023年度の重点活動とした準備・片付け・移動や軽作業・繰り返し作業を対象にした安全管理の強化については、一定の成果があったと評価
- ・一方で本作業での災害が増加していることから、期中で追加実施している『作業点検（リスクアセスメントの強化策）』については、今後も継続し定着化を図る必要がある



2025年度安全活動計画における具体策を検討中

【参考1】2024年度災害（熱中症除く）一覧表

(2025年1月末現在)

No	年月日	件名	種別	場所	傷害程度	概要	年齢	1F経験	作業状況
1	4月22日	燃料取り出し用南側構台設置工事における歩廊設置作業時に指を挟まれ負傷	はさまれ・まきこまれ	2号機原子炉建屋南側構台	不休	被災者は、2号機使用済燃料取り出し用構台の鉄骨建方作業を実施。燃料取り出し用構台の屋根梁上で、鉄骨歩廊ユニットを屋根梁間に納める作業を実施中に、鉄骨に右手中指を挟んだ。	30代	0年 3ヶ月	作業中
2	4月24日	コンクリート表層の剥がし作業中、高圧ケーブルを損傷し飛散したアークにより熱傷	電気	大型点検建屋西側付近屋外	不休	被災者は、埋設管路の補修（リルート）工事に伴い、作業班長以下4名で屋外舗装箇所の掘削作業（コンクリート表層の剥がし作業）を実施していたところ、パチパチと音が聞こえたので工具を引抜いた。十数秒後に当該部より煙が上がり、その後発生したアークにより右腕および右頬部に火花が飛んで熱傷を負った。	50代	13年 0ヶ月	作業中
3	5月23日	コンクリートミキサー車のシュート部清掃時に昇降ステップを踏み外して股関節を負傷	転倒・つまずき	固体廃棄物貯蔵庫第10棟	重傷	被災者は、固体廃棄物貯蔵庫第10棟建屋設置に伴うコンクリート供給業務委託においてコンクリートミキサー車にてコンクリートのかき出し作業後、可搬式ステップ（高さ0.9m）を降りる際に落下し、負傷した。	60代	0年 9ヶ月	作業中
4	5月30日	コンクリート打設作業中、コンクリートが長靴内に入りこみ両足脛部を化学熱傷	その他	使用済みセシウム吸着塔（第三施設）	不休	被災者は、使用済みセシウム吸着塔（第三施設）エリア内基礎コンクリートの打設作業に従事していた。コンクリートポンプ車により圧送されたコンクリートをレーキにて敷き均していた際、着用していた長靴上部からコンクリートのノロ（セメントを水に溶かした物、セメントペーストのこと）が入り込み両足脛部を化学熱傷により負傷した。なお、本人はコンクリートのノロが長靴に入り込んだことに気が付かず、作業終了後、長靴を脱いだ際に本事象に気が付いた。	50代	11年 11ヶ月	作業中
5	7月3日	移動しようとしていた仮設鋼材を落下させ左足指を負傷	飛来・落下	1号機北側道路	不休	1号機北側道路において、被災者は地面に仮置きした仮設鋼材（溝形鋼 長さ3m・約33kg）を整理・整頓するために、鋼材の片方を持ち上げてずらそうとした。その際に手を滑らせ、鋼材が被災者左足指の付根に当たった。	20代	4年 0ヶ月	作業中
6	7月9日	鋼材片付け作業中、鋼材と枕木の間に右人差指をはさみ負傷	はさまれ・まきこまれ	請負企業作業ヤード	不休	RO1/RO2除却工事で発生した鋼材片付け作業において、枕木の上に設置していた鋼材をより安定な状態にしようとするため、2人で鋼材を回転させた際、鋼材端部の溶断面と枕木に右手人差指を挟まれ、手を引き抜いた際に挫創した。	20代	0年 10ヶ月	作業中

* 傷害程度：休業日数による分類 ・重傷：14日以上 ・軽傷Ⅱ：4～13日 ・軽傷Ⅰ：1～3日 ・不休：休業なし

【参考1】2024年度災害（熱中症除く）一覧表

(2025年1月末現在)

No	年月日	件名	種別	場所	傷害程度	概要	年齢	1F経験	作業状況
7	9月25日	エレベーター組立て作業中に部材に指を挟まれ負傷	はさまれ・まきこまれ	5号機T/B 南西屋上 屋上階段	軽傷Ⅰ	仮設エレベーターをクレーンで揚重し、モーター架台とかごを接続する作業を実施していた。かごを降ろすために作業員Aはクレーンのオペレーターへ無線にて連絡、かごを徐々に降ろしたところ、かごの下部にいた技術指導員B（被災者）の右手小指がかごとモーター架台の隙間に挟まれ負傷した。	40代	2年 1ヵ月	作業中
8	9月25日	作業中に工具で左親指を挟み負傷	はさまれ・まきこまれ	構外西門前 1号機大型カバー 地組ヤード	不休	ボルト締め作業中に、工具(トルクレンチ)にて左手親指を挟んだ。	50代	0年 1ヵ月	作業中
9	9月25日	メッシュパレットの組立作業中、腰を痛め負傷	その他	2号機原子炉建屋 南側構台2号海側 資材ヤード	不休	南側構台2階の仮設資機材（ネット他）の片付け作業の実施後、2号海側資材ヤード（資材置き場）にてネットをメッシュパレットに入れる為にメッシュパレットの組立作業を行った。その際、組立時に力を入れる動作をしたところ、腰に痛みを覚えた。	30代	0年 3ヵ月	作業中
10	11月19日	1号機大型カバー設置工事玉掛作業中にワイヤーに左小指が接触し負傷	切れ・こすれ	1号原子炉建屋 北西ヤード	不休	上部架構鉄骨を吊り上げるため、鉄骨ユニットの最上段で玉掛作業後のワイヤーの巻き上げ中に、シャックルがプレス側へ倒れ引っ掛かったため、巻き上げ作業を中断。その際に、吊り天秤（平面：14m×4m、重量：約12.3t）が強風にあおられ、ワイヤーが引かれ引っ掛かり部が外れた際（テンションが開放）に、ワイヤーのカシメ部が作業員の左手小指にあたり負傷。	20代	0年 10ヵ月	作業中
11	12月10日	5号機T/B建屋地下1階復水器エリアにて移動中に配管サポートに頭部をぶつけ負傷	その他	5号機タービン建屋地 下1階 復水器エリア	軽傷Ⅰ	5号機T/B建屋地下1階復水器エリアにて、作業員が滞留水移送作業準備のため、現場へ徒歩で移動していたところ、配管サポートに頭部をぶつけ負傷した。	50代	3年 2ヵ月	作業前 移動中
12	1月10日	サブドレン他移送設備 サンプルタンクエリアにて逆止弁点検中に右手指を挟み負傷	はさまれ・まきこまれ	サブドレン他 移送設備 サンプルタンクエリア	不休	被災者は、口径サイズ200 Aの逆止弁点検作業を共同作業者2名と行っていた。 弁点検後の復旧作業の中、床面に置いてあったフランジ蓋（サイズ：φ318、厚み22mm、重量：約13kg）を両手でつかみ持ち上げ、共同作業者（作業班長）がいる立ち馬の天板上（天板高さ約1.5m、幅400mm）に置こうとした際に、つかんでいたフランジ蓋が右手から離れ、落下させまいと、咄嗟に右手でフランジ蓋下面を支えたため、フランジ蓋の重力で、立ち馬の4段目ステップ部とフランジ蓋の間に右手親指を挟み負傷した。	60代	9年 6ヵ月	作業中

* 傷害程度：休業日数による分類 ・重傷：14日以上 ・軽傷Ⅱ：4～13日 ・軽傷Ⅰ：1～3日 ・不休：休業なし

【参考2】2024年度安全活動計画（期中追加策含む）

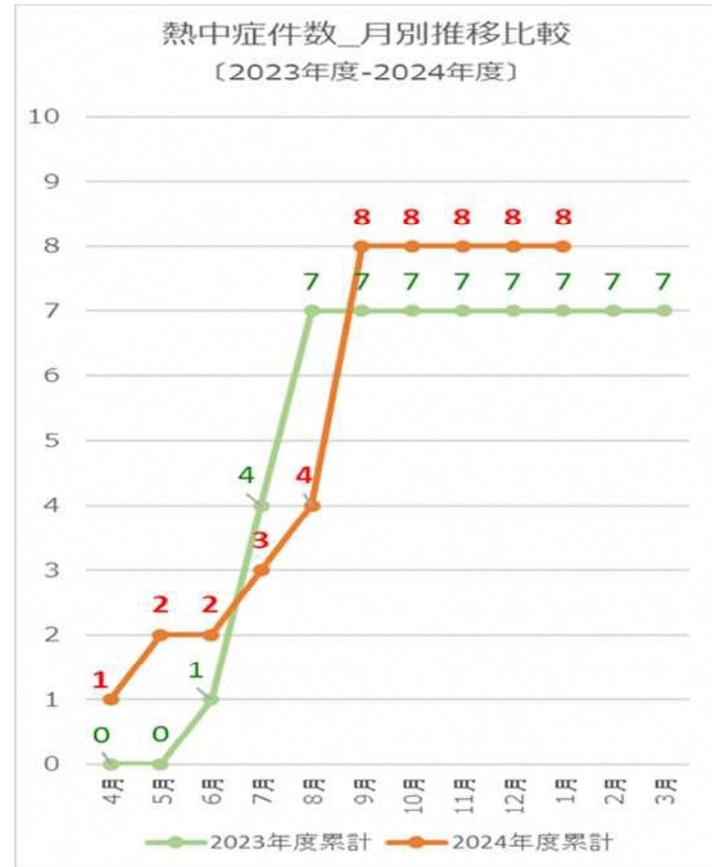
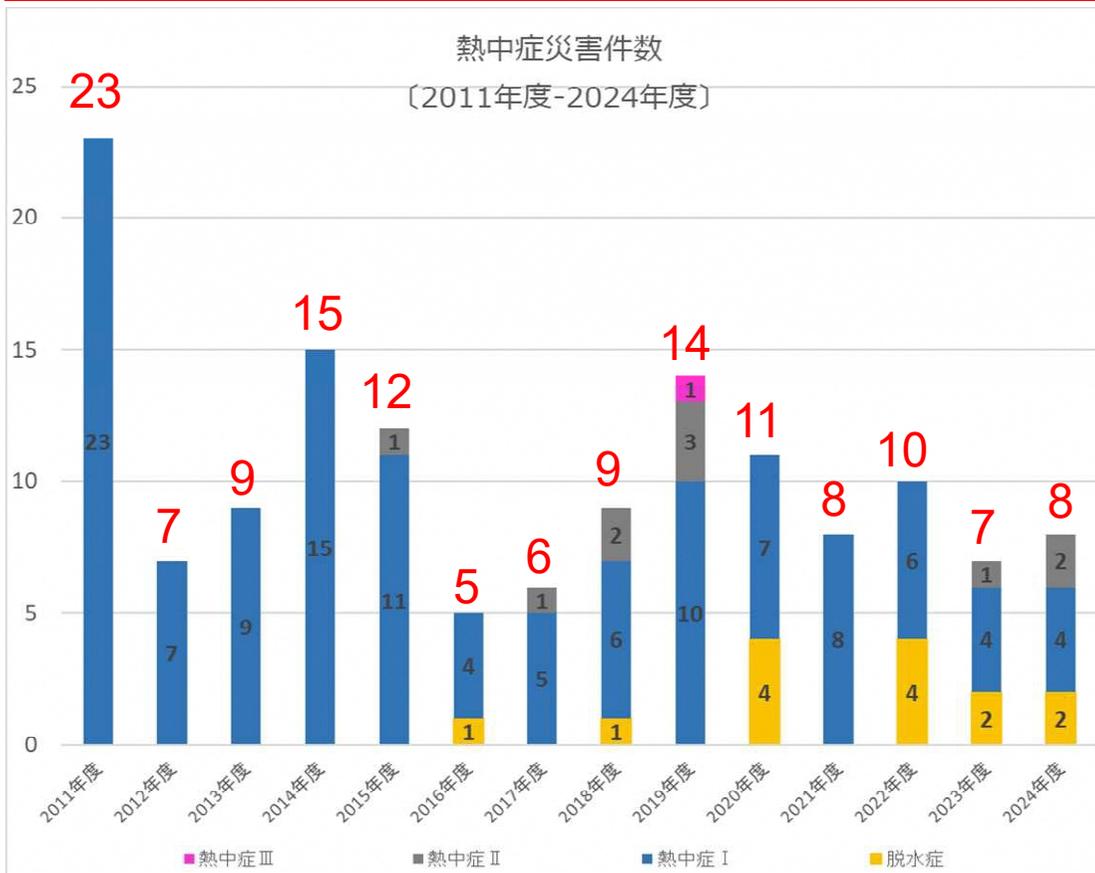
■ パートナー（元請企業）や1F各部各Gは、本計画を参考に自組織課題を踏まえた2024年度安全活動計画を策定し展開中

分類	アクションプラン	2024年度の取組みの内容	実施時期	新規/継続
人的対策	1. 安全意識の向上活動	①所員と作業員が一丸となって連続無災害記録更新に挑み安全意識を高める（連続無災害記録・災害件数の見える化、災害事例・情報の水平展開等） ②安全標語の応募・掲示、安全カレンダーの掲示（デジタルサイネージ活用） ③安全イベント（安全総決起集会など）による安全意識の向上 ④作業安全ハンドブック等の活用による安全ルールの遵守 ⑤1Fセーフティチャレンジ（社員・作業員参加）による無災害・無事故のイベント開催 ⑥安全行動実践キャンペーン（社員向け活動）	①毎日 ②毎月 ③適宜開催 ④毎日 ⑤下期 ⑥下期	[継続] ①②③④⑤ 「追加」 ⑥
	2. 安全管理のスキルアップ	①作業班長教育のうち安全管理の新カリキュラム継続実施（バーチャル・リアリティでの危険体感、災害再現CGの追加制作・活用等） ②所員、作業員の危険感度を向上させる安全教育の実施 ・実施内容、実施者、対象者、時期を安全活動計画書に定め、確実に実行する ③新規作業員の受け入れ時の安全教育を実施（災害再現CGの活用）	①4月～3月 ②4月～3月 ③適宜開催	[継続] ①②③
物的対策	3. 作業環境の改善活動	①一斉4S〔整理・整頓・清掃・清潔〕活動、工具総点検 ②現場KY・アフターKYでの不安全箇所の排除活動 ・災害が多い「転倒・つまずき災害」となる危険箇所の是正を重点的に行う ③作業環境改善（各休憩所・装備交換所の安全装備品・新型保冷剤を配備）	①4月～3月 ②4月～3月 ③4月～3月	[重点] ② [継続] ①③
	4. KYの改善活動	①現場KY～「直前 現場 現物 確認」～により、徹底した現場観察で、危険箇所の抽出を行う また、アフターKY（振り返り）で決めた対策については、翌日以降の作業手順等やTBMへの反映を行う ②所員の現場出向前のKY促進（社員災害の撲滅）	①4月～3月 ②4月～3月	[重点] ① [継続] ②
管理的対策	5. 危険箇所の撲滅・5S	①安全パトロールによる不安全箇所の排除活動 ②安全事前評価（リスクアセスメント）の横断的なチェック・評価	①4月～3月 ②4月～3月	[継続] ①②
	6. 独自の安全活動・コミュニケーション活動	①安全行動の徹底に関する取り組み ・『現場KY』『アフターKY』も含めた一連の安全管理を通じて現場リスクの徹底的な排除を行う ②準備・片付け・移動（付帯作業）や軽作業・繰り返し作業を対象に安全管理を強化 ・自組織に適した施策を設定し安全活動計画書へ反映し実践する ③自組織（所員・元請企業）毎に前年度の振り返りを行い、適した施策を安全活動計画書へ展開（PDCA活動） ④当社・元請企業による現場出向等の作業関係者とのコミュニケーションにより「安全行動の徹底に関する取り組み」や作業員一人ひとりの安全なふるまい等の更なる定着を目指す ・自組織に適した施策を設定し安全活動計画書へ反映し実践する ・幹部パトロールや安推協パトロールの運用見直しによる実施 ・MO&C活動（行動観察） ⑤パートナーと当社が一体となった安全活動の取り組み ・パートナー（元請企業）の所長・幹部クラスと当社カウンターパート（主管部）間で、人身災害を決して起こさないという決意をもって各企業の課題に応じた安全活動を計画し展開する ⑥定期的な情報共有の場を作り、好事例の水平展開などを図る ⑦作業員全員で行う作業開始前の作業点検（危険性又は有害性（ハザード）の抽出と是正）実施の徹底	①4月～3月 ②4月～3月 ③4月～3月 ④4月～3月 ⑤4月～3月 ⑥4月～3月 ⑦5月～3月	[重点] ①⑤ [見直し] ②④⑥ [継続] ③④ 「追加」 ⑥
	7. 熱中症予防活動	①4月～10月熱中症予防対策の強化（熱中症予防ルールの遵守等） ②猛暑期の熱中症予防強化（1回目休憩の早期設定、全面マスク着用時休憩工夫、件名毎の作業中止基準の設定等） ③元請企業ごとに熱中症予防計画書を作成、作業種ごとに熱中症管理を実施 ④熱中症予防に関するリスクアセスメントの見直し	①4月～10月 ②4月～10月 ③4月提出 ④4月～	[継続] ①③ [見直し] ②④

赤色：重点活動 青色：追加・見直し活動 緑色：期中に追加した活動

4. 2024年度の熱中症災害発生状況

(2025年1月末現在)



- ・2024年度の熱中症（脱水症含）は、**熱中症Ⅱが2件、熱中症Ⅰが4件、脱水症が2件発生**している
- ・2024年度の熱中症（脱水症含）は、2023年度1月末値と比較して**1名増（7人⇒8人）**となっている

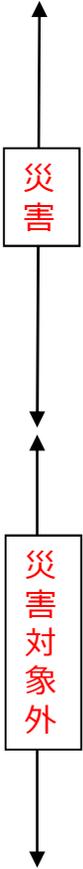
<2023年度>	<2024年度>
7件	8件
熱中症Ⅱ：1件	熱中症Ⅱ：2件
熱中症Ⅰ：4件	熱中症Ⅰ：4件
脱水症：2件	脱水症：2件

※熱中症重症度分類 ◆熱中症Ⅰ … めまい・失神、筋肉痛・筋肉の硬直 ◆熱中症Ⅱ … 頭痛、吐き気、嘔吐、倦怠感、虚脱感
◆熱中症Ⅲ … Ⅱの症状に加え、意識障害、けいれん、手足の運動障害

5. 2024年度の熱中症（脱水症含）の傾向

2024年度熱中症・脱水症（災害対象外:医療行為なし含）の発生傾向

発生日	件名	発生場所	WBGT ② (補正值込み)	熱中症 症状	医療行為		休業		作業内容	屋外	1~4 号機 周辺	① 装備			体調不良の要因			熱中症 対策 ウオッ チ装着	作業 時間	休憩 時間	発症 時間	
					有	無	有	無				防水 スーツ	Y	G	一般	熱順化	作業 時間					WBGT急変 (上昇)
4/26	既設ALPS建屋内にて安全通路の本設化に伴う新設歩廊鉄板削孔作業中に体調不良	既設ALPS建屋内	23.0°C	I	○		○		ALPS屋内での鉄板削孔作業中					○						3:00	1:10	12:10
5/21	T/B建屋の東側にてボーリング作業中に体調不良	2号機T/B建屋の東側	27.4°C	脱水症	○		○		ボーリング作業	○	○	○								4:00	0:30	11:41
7/30	コンテナ揚重の玉掛作業をしていた協力企業作業員が体調不良	1号西門ヤード建屋内	31.8°C	I	○		○		玉掛け作業	○	○									2:00	1:15	11:05
8/28	非常用窒素ガス分離装置手動起動試験の現場研修中の当社社員が体調不良	非常用窒素ガス分離装置エリア	30.0°C	脱水症	○		○		屋外での操作(研修中)	○										1:15	0:00	10:45
9/11	協力企業作業員が重機誘導作業後に体調不良	一時保管エリアE1	30.6°C	II	○		○		重機の誘導員	○										1:10	0:25	7:10
9/11	協力企業作業員が廃棄物の分別作業中に体調不良	一般廃棄物焼却炉	28.6°C	I	○		○		分別作業											1:30	0:25	9:50
9/13	共用プールで使用済み燃料移送を行っていた協力企業作業員が体調不良	共用プール建屋	30.9°C	I	○		○		使用済燃料移送	○										2:30	0:00	9:15
9/20	ランウェイゲータ物揚げ鋼材組立作業を実施していた協力企業作業員が体調不良	4号機カバール建屋内6階梁上	27.0°C	II	○	③	○		鋼材組立作業	○										3:25	0:25	11:00
5/19	入域時に立ち眩みでER入室	入退管理棟	—	脱水症		○	○		作業前											—	—	—
7/25	H9エリアで配管撤去作業中に体調不良	H9タンクエリア	32.9°C	脱水症		○	○		配管撤去作業中	○	○									1:45	0:00	8:30
7/27	1F入退管理棟他出入監視業務における体調不良負傷について	56号機車両ゲート手荷物検査所	27.9°C	脱水症		○	○		手荷物監視											—	—	—
8/2	空調工事作業をしていた作業員が体調不良	免震棟	30.3°C	I		○	○		免震棟空調工事											2:00	0:40	7:40
8/2	空調工事作業をしていた作業員が体調不良	免震棟	30.3°C	I		○	○		免震棟空調工事											2:00	0:40	7:40
8/19	鉄骨切断作業に従事していた作業員が体調不良を訴えER入室	1号機T/B建屋	28.2°C	脱水症		○	○		鉄骨切断作業	○										1:00	0:40	20:00
8/19	6号機R/B大物搬入口外扉閉鎖不良および脱水症の発生	6号機R/B大物搬入口	—	脱水症	○		○		搬入口外扉閉鎖(被害災害)											—	—	—
9/20	機電設備設置工事における体調不良	固体廃棄物貯蔵庫第10-C棟	24.6°C	脱水症		○	○		固体庫10-C棟,換気設備設置											1:50	0	9:50



＜傾向＞

- ① Y 装備での熱中症が多い（毎年同じ傾向）
- ② WBGT値が約28°Cを超えると熱中症が多く発症し、また午前中のWBGT値の急上昇時間帯で、多く発生している
- ③ 救急治療室（ER）の早期受診で軽症化（医療行為無し）が7件あり（良好事例・早期受診の定着化）

6. 2024年度熱中症災害の傾向と今後の安全対策

(1) 熱中症（脱水症含）の傾向

- ① Y 装備での熱中症が多い（毎年同じ傾向）
- ② WBGT値が約28℃を超えると熱中症が多く発症し、また午前中のWBGT値の急上昇時間帯で、多く発生している
- ③ 救急治療室（ER）の早期受診で軽症化（医療行為無し）が7件あり
（良好事例：ER早期受診の定着化が図れている）

(2) 今後の熱中症予防対策の方向性

- ・熱中症災害については、2023年度に引き続き2024年度も暑い夏であったにもかかわらず、発生数は2023年と同様の発生数で推移しており、2024年度の熱中症予防対策については、一定の成果があったと評価
- ・2024年度熱中症予防対策をベースに今年度の傾向を捉えた2025年度熱中症予防対策の計画を検討・策定し所内ならびに協力企業へ事前提示する（4Qに実施）
⇒協力企業向けに2024年度熱中症予防対策の振り返りアンケートを実施し活動へ反映



2025年度熱中症予防対策計画における具体策を検討中

【参考3】2024年度災害一覧（熱中症）

(2025年1月末現在)

No	年月日	件名	種別	場所	傷害程度	概要	年齢	1F経験
1	4月26日	既設ALPS建屋内にて安全通路の本設化に伴う新設歩廊鉄板削孔作業中に体調不良	熱中症 (熱中症Ⅰ)	既設ALPS建屋内	不休	既設ALPS建屋内にて安全通路の本設化に伴う新設歩廊鉄板削孔作業中に当該作業員が体調不良を訴えた。その後、旧登録センターに移動し、体調が回復しなかったことから、ER（救急医療室）にて受診。	40代	2年 0ヶ月
2	5月21日	T/B建屋の東側にてボーリング作業中に体調不良	熱中症 (脱水症)	2号機T/B建屋の東側	不休	2号T/B建屋の東側でボーリングによる削孔作業（Y装備）をしていた作業員が、体調に違和感があると感じて、元請社員に申し出た。その後、装備交換所に移動後にER（救急医療室）にて受診。	60代	0年 6ヶ月
3	7月30日	コンテナ揚重の玉掛作業をしていた協力作業員が体調不良	熱中症 (熱中症Ⅰ)	1号西門ヤード 建屋内	不休	被災者は共用プール南側のコンテナ揚重の玉掛作業に従事していた。元請職員は、作業再開直後に被災者の顔色がいつもと少し違うことに気付いたため、念のため被害者の作業を中止させた。被災者は退域手続きを完了し、協力企業棟西側の駐車場で休憩。その後、ガラスバッチ返却のため移動した1号西門ヤード建屋内で体調不良となった。	40代	1年 2ヶ月
4	8月28日	非常用窒素ガス分離装置手動起動試験の現場研修中の当社社員が体調不良	熱中症 (脱水症)	非常用窒素ガス分離装置エリア	不休	1～4号出入管理所東側の非常用窒素ガス分離装置エリアにて、定例試験の現場研修を開始したところ、吐き気を感じたため、研修指導者に体調不良を伝え現場を退域した。 当該エリアは屋外で日を遮る場所が少ないエリアである。体調不良発生時の行動としては、実際の機器を見ながら指導員から説明を受けるものであり、当該者の操作はない状態であった。	10代	0年 1ヵ月

* 傷害程度：休業日数による分類 ・重傷：14日以上 ・軽傷Ⅱ：4～13日 ・軽傷Ⅰ：1～3日 ・不休：休業なし

【参考3】2024年度災害一覧（熱中症）

(2025年1月末現在)

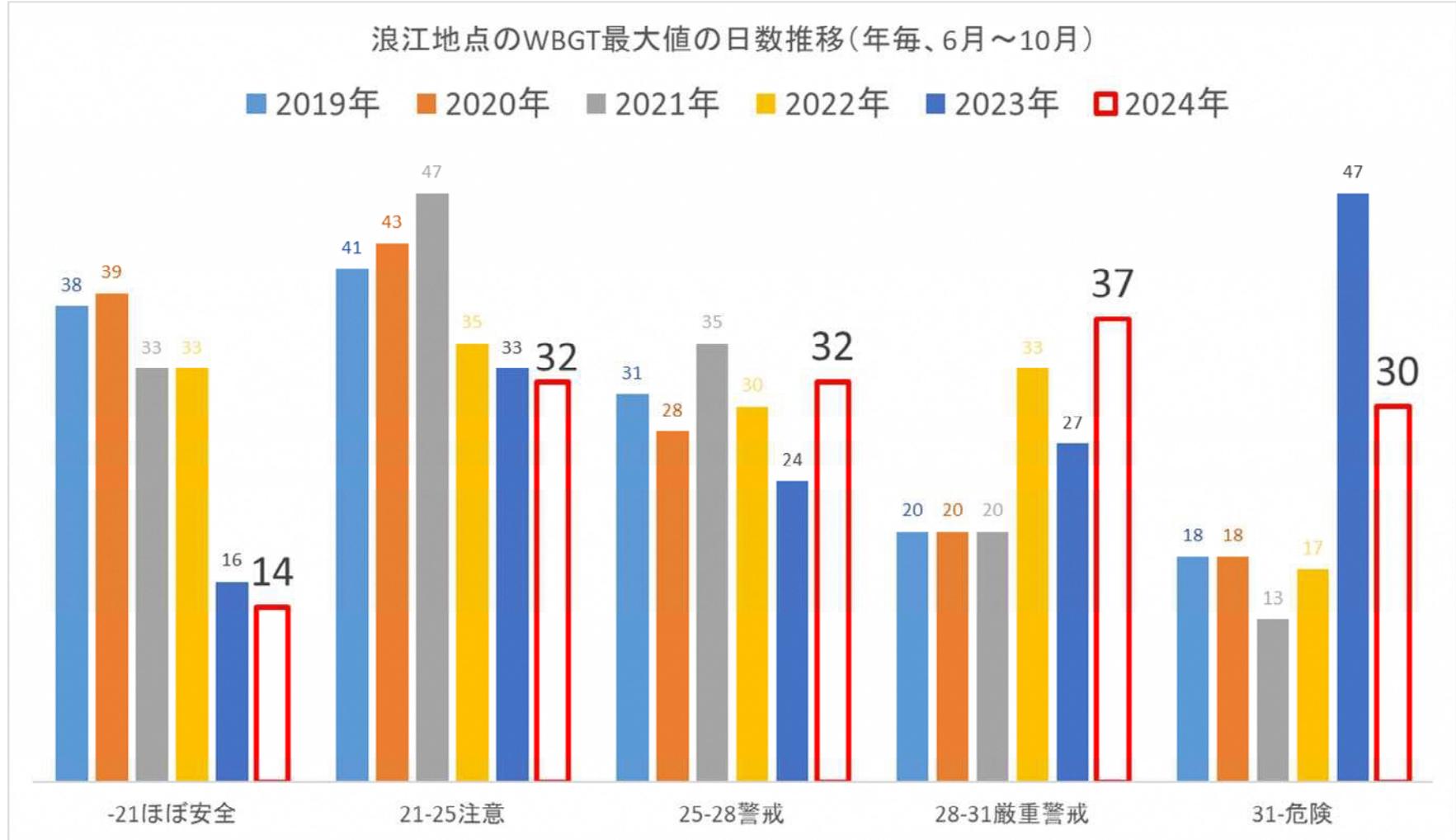
No	年月日	件名	種別	場所	傷害程度	概要	年齢	1F経験
5	9月11日	協力企業作業員が重機誘導作業後に体調不良	熱中症 (熱中症Ⅱ)	一時保管エリア E1	不休	一時保管エリアにて、重機の誘導員として作業に従事していたが、WBGT値27.6℃（Y装備を加味すると補正值31℃）となったことから、作業班長が作業中止判断した。このため、被災者は着用していた誘導員ベストを片付けようとした際に、膝から地面についたため、構内ERを受診。	20代	0年 4ヵ月
6	9月11日	協力企業作業員が廃棄物の分別作業中に体調不良	熱中症 (熱中症Ⅰ)	一般廃棄物 焼却炉	軽傷Ⅰ	No. 5 資材倉庫及び一般廃棄物焼却炉にて分別作業等を行っていた作業員について、発汗の状態が異常であることを近傍で作業をしていた作業班長代理が発見し、当該作業員に水分補修・保冷材による冷却を行い休息をさせたが、その後、状況が改善されずERで受診した。	50代	0年 1ヵ月
7	9月13日	共用プールで使用済み燃料移送を行っていた協力企業作業員が体調不良	熱中症 (熱中症Ⅰ)	共用プール建屋	不休	作業終了後、対象不良の訴えあり。 足がつっていたため作業車両にてERに搬送。	40代	13年 5ヵ月
8	9月20日	ランウェイガータ物揚げ鋼材組立作業を実施していた協力企業作業員が体調不良	熱中症 (熱中症Ⅱ)	4号機カバー建屋 内6階梁上	軽傷Ⅰ	現場入域のため、事務本館 2階休憩所にて作業準備として装備に着替えた後、構内バスと歩行にて4号機カバー建屋作業場に移動し、現場KYを実施したのち作業を行った。作業完了後、事務本館にて終礼を行った後、本人が体調不良を申し出たので、休憩所にてしばらく横になって休憩をしていた。20分後体調が戻ったと本人が話したので、免震棟からバスで入退管理棟に向かったところ、バス内で再び体調が悪化し、入退管理棟の出入口にて、相方の作業員が本人を背負ってERに直接搬送した。	30代	13年 0ヵ月

* 傷害程度：休業日数による分類 ・重傷：14日以上 ・軽傷Ⅱ：4～13日 ・軽傷Ⅰ：1～3日 ・不休：休業なし

【参考4】2024年度の気象状況

①WBGT値の状況（最大値別の日数比較）

※環境省熱中症予防情報サイト公開データより作成

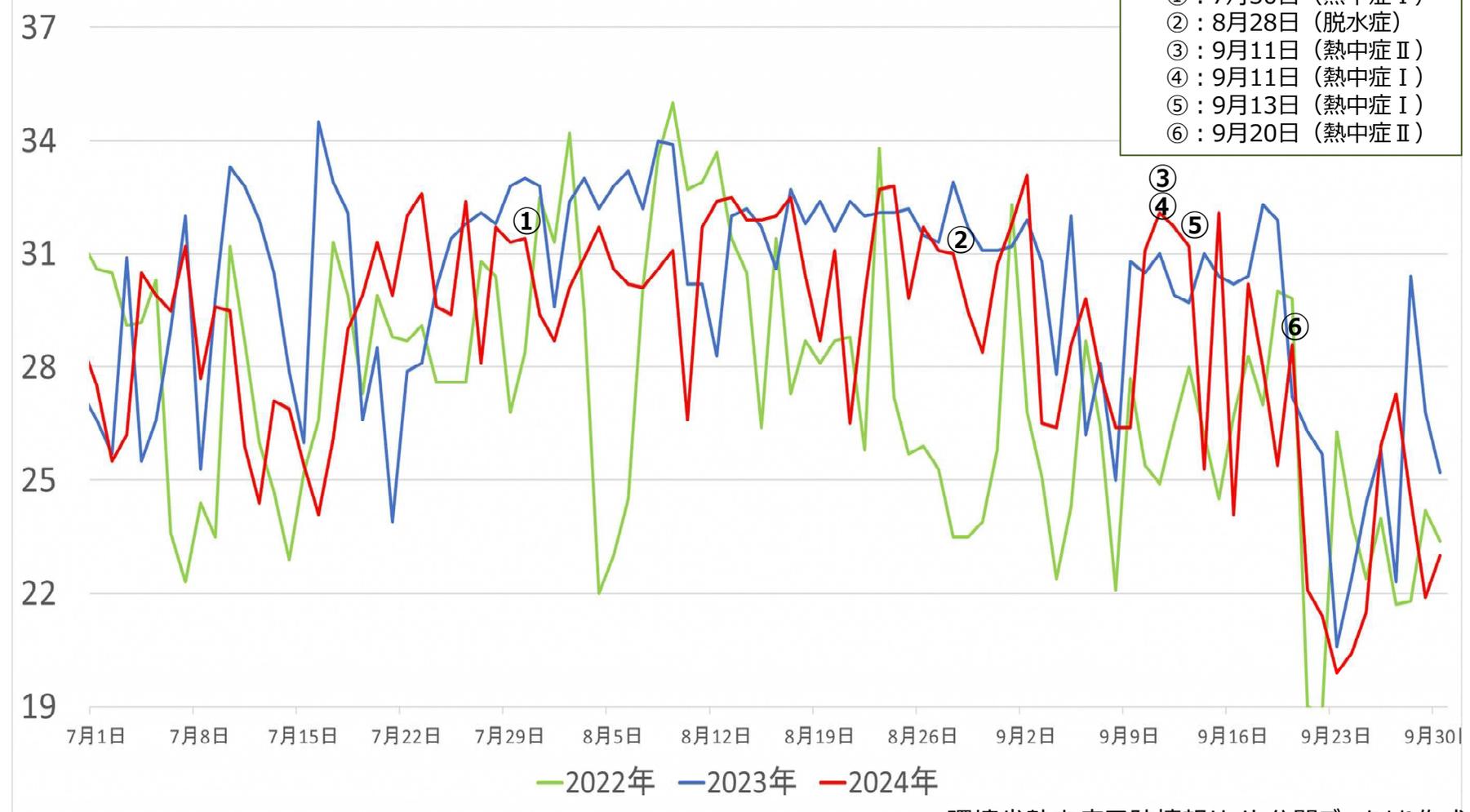


- ・2023年：危険日が多くなった
- ・2024年：危険日は昨年より減ったが、警戒と嚴重警戒が増えている



【参考5】2024年度の気象状況と熱中症発生状況

①WBGT値の状況（過去3年間のWBGT最大値の推移）

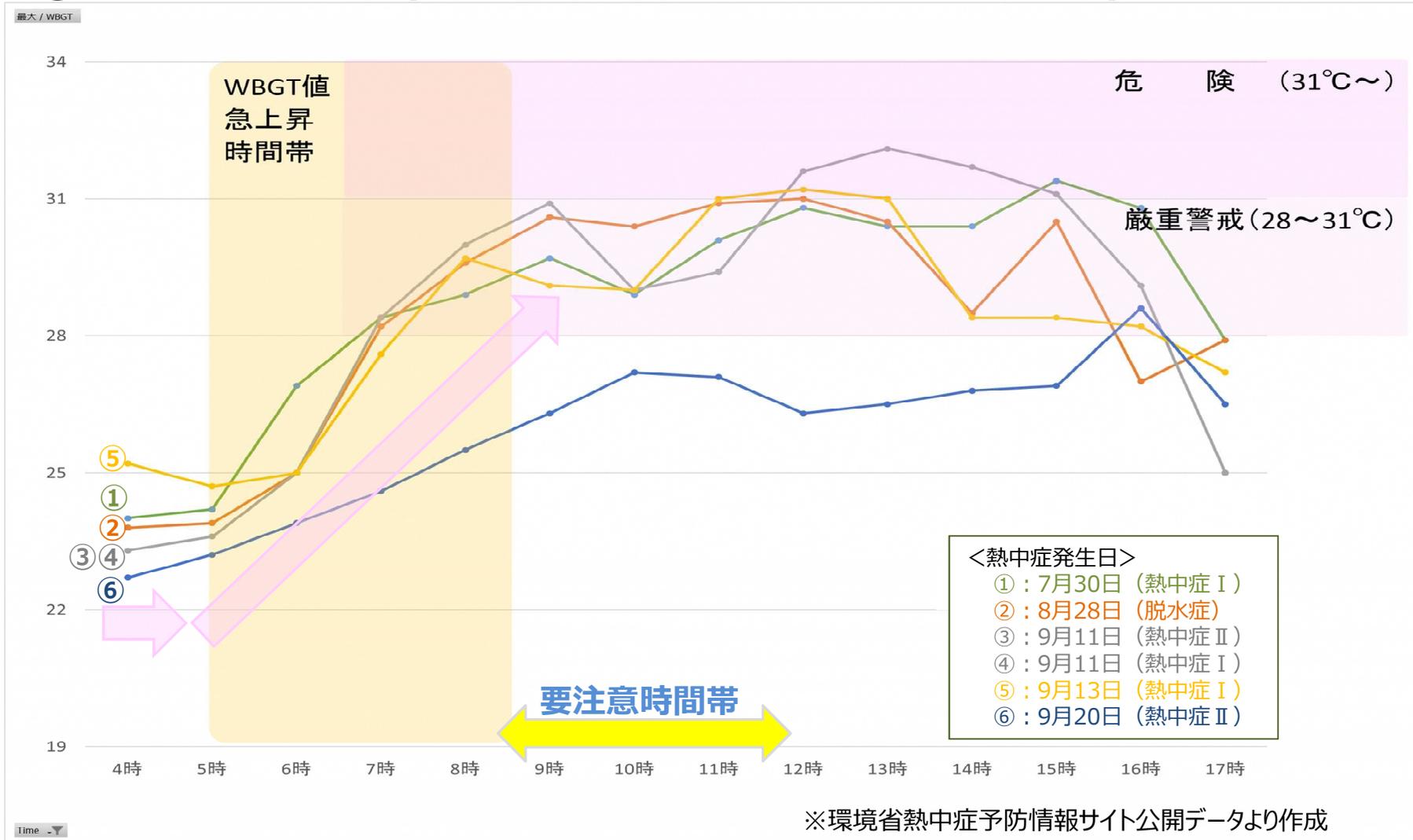


◎ 2023年と2024年のWBGT値は、2022年以前と比較して高めで推移
 ◎ 2024年9月初旬、WBGT値が低めになった後に、9/11~9/20頃WBGT値が高めに推移したことで、熱中症 I が2件、熱中症 II が2件発症した



【参考5】2024年度の気象状況と熱中症発生状況

②WBGT値の状況（熱中症発生日におけるWBGT値の推移）



◎熱中症が発生した日のWBGT値の推移は、朝、25℃未満であったWBGT値が、午前中のWBGT値の急上昇で嚴重警戒（28-31℃）以上となった日が多かった（朝WBGT値が低く、午前中に嚴重警戒以上になる日は要注意）

【参考6】2024年度の主な熱中症予防対策

熱中症予防対策期間（4月～10月）

● 安全活動計画に併せ熱中症予防対策計画を策定し各予防対策を推進

1. 熱中症予防対策の重点活動（実施：当社・パートナー）

- 作業開始後2時間未満での発症が多いため、1回目の休憩は早めに設定する
- 全面マスク作業員での発症が多いため、休憩の取り方などの工夫を図る
- 作業の中止判断は、作業毎に当社主管部と企業との協議で条件を定め実施する

2. 労働環境の改善（実施：当社）

- 給水車等の提供（追加）
 - ・給水車&トイレの配備：4箇所（1～4号機周辺他）…次スライド以降で詳細説明
- 休憩所での提供（継続）
 - ・給水（水・スポーツドリンク）設備、塩タブレットを基本的に配備
- エアコン故障対応の備え（改善）
 - ・早期修理対応ができるよう予備品の購入、修理業者の確保などの対策を行う

3. 熱中症対策関連の情報提供（実施：当社）

- デジタルサイネージによる情報提供（改善）
 - ・天気予報、WBGT予想値、などの情報提供
 - ・設置箇所の増設：1箇所（場所：入退管理棟PPゲート前）
- 所内共通掲示板（イントラ）によるWBGT予想値の提供（継続）

4. 軽症化に向けた取り組み（実施：当社・パートナー）

- 作業員へ救急医療室（ER）の早めの利用について、今後も促進していく（継続）

【参考6】2024年度の主な熱中症予防対策

[2024年度の給水車の運用改善]

- 開始日 : 2024年6月17日(月)より開始
- 配備箇所 : 4箇所
 - ①サイトバンカ建屋周辺(8.5m盤)
 - ②大型機器メンテナンス建屋周辺(33.5m盤)
 - ③構内北側エリア(33.5m盤)
 - ④4号機タービン建屋東側(2.5m盤) ←9月20日より追加開始
- 2023年度からの変更点(改善)
 - ・最大利用人数増(10名程度)
 - ・給水車内へ簡易トイレの設置
 - ・喫煙所の設置(加熱式タバコ限定)



■活用状況

- 運用面の改善により、利用人数が大幅に増加した
(熱中症対策の有効な1手段となった)

【参考6】2024年度の主な熱中症予防対策

[2024年度の給水車の運用改善]

＜給水車外観＞



1～3号車外観



4号車外観

＜給水車の配置場所＞

